

日本最古の木造再建城



郡上 八幡城





春



郡上八幡城新緑まつり (5月)

夏

城下町花火大会 (8月初旬)



記念STAMP



秋



郡上八幡城もみじまつり (11月)



冬



お城から見た市街全景



郡上八幡城主一覽

代数	城主名	任命職務	在任年号	在任期間	在任年数	領地石高	備考
初代	遠藤盛数 <small>もりかず</small>	(領主)	永禄2年 同5年	1559 1562	3	郡上郡一円	永禄5.10.14歿、郡上戸谷寺(現乗性寺)
2代	慶隆 <small>よしたか</small>	但馬守	永禄5年 天正16年	1562 1588	26	同上	天正16年加茂郡小原(7千5百石)に移封
3代	稲葉貞通 <small>さだみち</small>	右京亮	天正16年 慶長5年	1588 1600	12	郡上郡 武儀郡 4万石	慶長5年関ヶ原戦後豊後国臼杵へ
4代	遠藤慶隆 <small>よしたか</small>	(藩主) 但馬守	慶長5年 寛永9年	1600 1632	32	郡上郡(復帰) 2万7千石	寛永9.3.21歿83才
5代	慶利 <small>よとし</small>	伊勢守後に 但馬守	寛永9年 正保3年	1632 1646	14	同上	正保3.6.28歿38才 乗性寺
6代	常友 <small>つねとも</small>	備前守	正保3年 延宝4年	1646 1676	30	同2万4千石 3千石分知	延宝4.5.4歿49才 乗性寺
7代	常春 <small>つねはる</small>	左衛門佐	延宝4年 元禄2年	1676 1689	13	同上	元禄2.3.24歿23才 乗性寺
8代	常久 <small>つねひさ</small>		元禄2年 同5年	1689 1692	3	同上	元禄5.3.30歿7才 江戸長敬寺
9代	井上正任 <small>まさとう</small>	中務少輔	元禄5年 同6年	1692 1693	1	郡上郡 越前大野 5万石	元禄13.12.16歿
10代	正岑 <small>まさみね</small>	大和守寺社 奉行奏者番	元禄6年 同10年	1693 1697	4	同4万7千石 3千石分知	元禄6.9.2弟正長に和良3千石を分知 同10.6.10丹波亀山に移封
11代	金森頼岑 <small>よるとき</small>	出雲守	元禄10年 元文元年	1697 1736	39	同3万8千石	羽州上ノ山より移封 元文元5.23歿
12代	頼錦 <small>よしかね</small>	若狭守兵部 少輔奏者番	元文元年 宝暦8年	1736 1758	22	同上	宝暦8.12.25断絶 (宝暦騒動)
13代	青山幸道 <small>よしみち</small>	大和守大蔵 少輔大膳亮	宝暦8年 安永4年	1758 1775	17	同4万8千石	安永8.10.30歿55才
14代	幸完 <small>よきさだ</small>	大膳亮、若 年寄奏者番 寺社奉行	安永4年 寛政3年	1775 1791	16	同上	文化5.2.8歿
15代	幸孝 <small>ゆきたか</small>	大蔵少輔 寺社奉行	寛政3年 文化12年	1791 1815	24	同上	文化12.11.25歿
16代	幸寛 <small>ゆきひろ</small>	播磨守 大膳亮	文化13年 天保3年	1816 1832	16	同上	天保3.6.26歿
17代	幸礼 <small>ゆきのり</small>	播磨守	天保3年 同9年	1832 1838	6	同上	天保9.8.25歿
18代	幸哉 <small>ゆきしげ</small>	大蔵大輔奏 者番、大和 守、寺社奉行	天保9年 文久3年	1838 1863	25	同上	文久3.7.16歿
19代	幸宜 <small>ゆきよし</small>	大膳亮 郡上藩知事	文久3年 明治2年	1863 1869	6	同上	明治2. 版籍奉還

《郡上八幡城の沿革》

- 承久3年(1221)下総国(千葉県)香取郡東庄、千葉氏の支流東胤行(とうのたねゆき)が山田庄を賜わり郡上東家の初代となった。7代益之は応永16年(1409)赤谷山に城を築いた。
- 応仁2年(1468)9代城主常縁(つねより)は東征の留守の間に土岐家の守護代斉藤妙椿(みょうちん)に篠脇城(大和町牧)と所領を奪われた。常縁は和歌を詠み、はかない世の移り変わりを悲しんだ。この歌に深く心を動かされた妙椿は更に和歌10首を請い返歌とともに所領を返した。(文明元年<1469>)
- 文明3年(1471)飯尾宗祇が郡上に入り八幡の宮ヶ瀬河畔に住み常縁より古今伝授を受ける。
- 天文年間(1532~54)13代常慶は東殿山(八幡町旭)城を築いた。
- 弘治3年(1557)山内一豊の妻となる千代が、後の初代八幡城主遠藤盛数(もりかず)の娘として生まれる。
- 永禄2年(1559)常慶の子常堯(つねたか)により、遠藤胤縁(たねより)が殺害された。弟盛数は甲合戦の名目で東殿山の常慶を攻撃して滅ぼし、八幡山に城を築いて移った。これで承久以来12代340年も続いた東氏は滅びた。盛数は郡上一円を領し、胤縁の子胤俊に木越城を継がせ、所領のうち半分を分け与えた。
- 永禄5年10月14日(1562)盛数死亡し、その子三郎四郎慶隆が13才で2代目を継いだ。永禄6年(1563)慶隆を守るため母は関城主永井隼人と再婚し、千代とともに関に移る。
- 永禄7年春(1564)慶隆が井之口(岐阜市)に滞在中、胤俊は不意を襲って八幡城を奪い、慶隆とその弟慶胤へ叛旗をひるがえした。慶隆は急を知り帰幡、関城主永井隼人(慶隆の母の再縁先)の助けで八幡城を奪い返した。敗軍の将となった胤俊は木越城をその弟胤基に譲ると剃髪して出家し八幡城下の宗祇水のそばに草庵を結んで棲んだ。のち慶隆は織田信長の配下となり姉川の合戦をはじめ各地に転戦して戦功をあげた。
- 天正16年(1588)慶隆は岐阜城主織田信孝に通じていたので豊臣秀吉に疎まれ加茂郡小原犬地に移され、7千5百石を領有し、八幡城には安八郡曾根から稲葉一鉄の子稲葉右京亮貞通が4万石で封ぜられた。貞通は八幡城の大改築を行ない旧態を一変させた。
- 慶長5年(1600)慶隆は家康に願い出て飛騨の金森可重の援軍を受け9月1日八

幡城の稲葉通孝を攻めた。可重は小野山に陣取り、慶隆は大宮山王（八幡町日吉神社）に陣を構えて両面から城を攻撃、激戦は終日つづいた。

勝敗は決まらず、翌2日、ついに通孝から和睦の申出があって慶隆は大宮の陣をとぎ、愛宕山の本陣へ兵をひいた。そのころ犬山城にあった稲葉貞通は八幡城が包囲されたとの報をうけ、急拠兵をまとめて9月3日の明方慶隆の愛宕山本陣を奇襲した。慶隆は小野山の可重の陣に危うく逃がれ、貞通は凱歌をあげて八幡城にはいった。慶隆、可重の軍は小野山から八幡城を攻め、搦手（からめ手）で大激戦のすえについに和睦した。

- 慶長5年（1600）関ヶ原合戦に慶隆は遊軍として参加し、11月には慶隆は再び八幡城主として2万7千石を領した。稲葉貞通は豊後国（大分県）臼杵へ5万石で移された。
- 正保3年（1646）12月遠藤常友（つねとも）が3代目の城主となり、寛文7年（1667）幕府の許可をうけて八幡城の大修築をなし、近郷の寺院を城下に集め「8家9宗」を形づくるなど城下を拡張整備し「城主格」から「城主」の称をゆるされた。
- 元禄5年（1692）3月5代目城主常久は7才で死亡し、幕府の決定によって遠藤家の所領は取りつぶしとなったが慶隆の功績が認められ、大垣藩の一門戸田氏成の子、数馬胤親に遠藤家を継がせて常陸（茨城県）下野（栃木県）で1万石を与えられた。
- 元禄5年11月常陸国笠間城主井上中務少輔正任（まさとう）が5万石で八幡城主となった。
- 元禄10年（1697）2代城主正岑（まさみね）は丹波国（京都府）亀山に移され、同年6月11日羽州（山形県）上の山から元高山城主金森出雲守頼岑（よりとき）が3万8千石で八幡城主となった。
- 元文元年（1736）頼岑が死し、嫡孫の頼錦が2代目城主を継いだ。頼錦は学識にすぐれ文学書画をよくし、先人の遺業を顕彰するなど、文化的な城主であったが、晩年幕府の奏者役という重職から出費が多くなり国家老の年貢増徴の苦肉の策が嵩じ、ついに宝暦4年（1754）領内の農民が蹶起して世に云う宝暦騒動（郡上一揆）が起き、農民の代表が出府して老中酒井忠奇に駕籠訴を行ない、続いて同8年（1758）4月2日將軍徳川家重に箱訴をして窮状を訴えたため、頼錦は治世怠惰の責任を問われ金森家は断絶となった。
- 宝暦8年（1758）丹後国（京都府）宮津の城主青山大和守大膳亮幸道（よしみち）が郡上へ国替を命ぜられた。同9年6月青山幸道が八幡城に赴任して4万8

千石の新しい統治者となった。以来青山氏は郡上藩の領主として7代111年間続き、明治2年（1869）青山幸宜が版籍を朝廷に返して郡上藩知事となった。

- 昭和8年（1933）10月八幡山天守台跡に天守閣、隅櫓、高塀を再建した。
- 昭和30年（1955）8月30日岐阜県史跡（八幡城跡）に指定される。
- 昭和57年（1982）11月八幡城石垣改修始まる。
- 昭和58年11月5日郡上八幡城再建50周年式典挙行。
- 昭和59年9月開城以来入場者が100万人を突破。
- 昭和62年（1987）2月八幡城史跡保存会発足。
- 同年6月城郭の大改修。（完成昭和63年7月）
- 同年9月10日八幡町重要文化財（八幡城）指定。
- 平成2年（1990）6月高塀、隅櫓の改修。（完成平成3年5月）
- 平成3年4月八幡城門扉取付工事始まる。（完成平成3年6月）
- 平成5年7月～10月郡上八幡城再建60周年記念イベント開催。
- 平成12年（2000）4月管理運営業務が町から（財）郡上八幡産業振興公社に委託される。
- 同年6月開場以来入場者が200万人を突破。
- 平成18年1月城内全面展示リニューアル。
- 平成21年11月14日～15日郡上八幡城築城450周年記念イベント開催。
- 平成22年11月開場以来入場者が300万人を突破。
- 平成25年5月～11月郡上八幡城再建80周年記念イベント開催。

郡上八幡城について

名称：郡上八幡城（別名 積翠城）
種類：山城
築城者：遠藤盛数（初代城主）
築城年代：永禄2年（1559年）
：城跡（石垣）県史跡指定
城郭：昭和8年再建（1933年）
構造：4層5階建木造建築（木造再建城としては、日本最古。）

1. 天守閣の規模

建面積 118.98m² (35.99坪)
延面積 309.11m² (93.50坪)
高さ 17.18m

2. つげやぐらの規模

建面積 22.09m² (6.68坪)
延面積 22.09m² (6.68坪)
高さ 3.72m

郡上八幡城所蔵品の紹介（一部）

品名	説 明
金の鴛標	関ヶ原の合戦等での報償として徳川家康から拝した、13代城主青山家に伝わる家宝で、10万石の格式を示したと言われている。馬の首に付ける弓具（鴛標）を飾り物に仕立てたもので、行列の先頭に用いられた。
遠藤家の鎧	2代・4代八幡城主遠藤慶隆が、信長方について奮闘した姉川の戦いで、実際に着用されたと伝えられている鎧。相手の攻撃をかわし易くするため、胴の部分が少し山型になっている。（市指定重要文化財）
青山家の鎧	八幡城主青山家に代々伝わる家宝の鎧。八幡城の本丸御殿におかれていたものを明治維新後八幡神社に奉納された。（市指定重要文化財）
見性院 （山内一豊の妻） 肖像画	土佐藩主山内一豊の妻で内助の功で有名な千代は、初代八幡城主遠藤盛数の娘として生まれた。やがて、縁あって一豊のもとに嫁いだ。信長の馬ぞれえや関ヶ原の戦いの笠の緒の密書の逸話は有名。（原本は土佐山内家宝物資料館蔵）
郡上八幡城 合戦絵図	慶長5年（1600年）遠藤慶隆と稲葉貞通との間で壮絶な戦いが行われた様子を絵図にしたもの。
日本一 （霊府神）	18代城主青山幸哉（ゆきしげ）が江戸下屋敷（東京青山）に住んでいたころ暴風で倒れた大木の中から「日本一」の文字が出てきたことから、これを霊府神として祭ったもの。
青山家 領地目録	青山家は、宝歴騒動後郡上に入部した。領地は、4万8千石、郡上一円（157ヶ村）と福井県の大野・勝山（72ヶ村）、鯖江（22ヶ村）まで広がり代官所もおかれていた。
金びょう風 （鷹の絵）	6枚2組になるこのびょうぶは、城中にあったもので鷹の絵が描かれており駒井源琦（こまいげんき）（寛政9年51歳没）の作と言われている。

郡上八幡城見学のご案内

開場時間 午前9時～午後5時
 6月～8月 午前8時～午後6時
 11月～2月 午前9時～午後4時30分

城郭及び展示場の休館日 12月20日～1月10日

主な催し 郡上八幡城新緑まつり（5月）
 郡上八幡城もみじまつり（11月）

住 所 岐阜県郡上市八幡町柳町一の平659

TEL (0575) 67-1819 FAX (0575) 67-9019

一般財団法人 郡上八幡産業振興公社ホームページ <http://www.gujohachiman.com>

郡上八幡日和 検索